

一人悩まず打ち明けて

人間関係に悩みを抱える学生をサポートしようと、富山大学生支援センターは本年度から、インターネットと面談を組み合わせた独自の支援プロジェクトの運用を始めた。面と向かって言いにくい悩みについてはインターネットで耳を傾け、対処法をアドバイス。面談では教職員が学生の悩みを共有し、問題解決策を助言する。学生生活を包括的に支援し、社会の一員としての自立につなげる。

同センターによると、コミュニケーションが苦手な友人ができなかったり、ゼミの討論などで反論された際、必要以上に落ち込み、大学に行かなくなるなどの学生が増加。協調性に欠けたり、人間関係でつまづく「高機能発達障害」の学生もいるという。

同センターは平成十九年七月、悩み

を抱える学生を支援する独自のプロジェクトを作り上げ、文部科学省に申請、同十月に採択された。プロジェクトでは、全学生と教職員共用のサイトをネット上に立ち上げる。仲の良い友人たちによる「マイフレンドリスト」を作り、悩みや日常の出来事を話し合う。各自が日記を書き、リストのメンバーらが閲覧できるようにする。サイトを近く開設し運用を始める。

面談は、教職員が二、七人程度のチームを組み対応する。昨年度までは、主に学生の悩みを聞くだけだったが、悩みに対し多角的にアドバイスすることで、学生に幅広い問題解決策を身に付けさせる。

四月から教職員による面談を始めて

大 富山 ネット・面談で 学生サポート

おり、同大五福、杉谷、高岡キャンパスの計十二人が利用している。就職活動を支援した学生で、企業から内定を得たケースもあった。

同センターータルコミュニケーションセッション支援室の吉永崇史特命准教授(三)は「学生は一対一だと話しやすかったり、逆にインターネットの方が悩みを打ち明けやすかったりとさまざま。学生に適した形で対応し、立ち直るきっかけをつくりたい」と話す。



インターネットサイトの運用開始に向け、準備を進める吉永特命准教授(右)

富山大学生支援センター